

原子力バックエンド費用

2023年1月19日
北陸電力株式会社

原子力バックエンド費用

- 原子力バックエンドに係る各種費用は、法令等に基づき算定しております。
- 原子力バックエンド費用は、施設の解体に係る見積総額の増加や、省令改正に伴う費用引当方法の変更による原子力発電施設解体費の増加により、現行原価対比で11億円増加しております。

<原子力バックエンド費用の内訳>

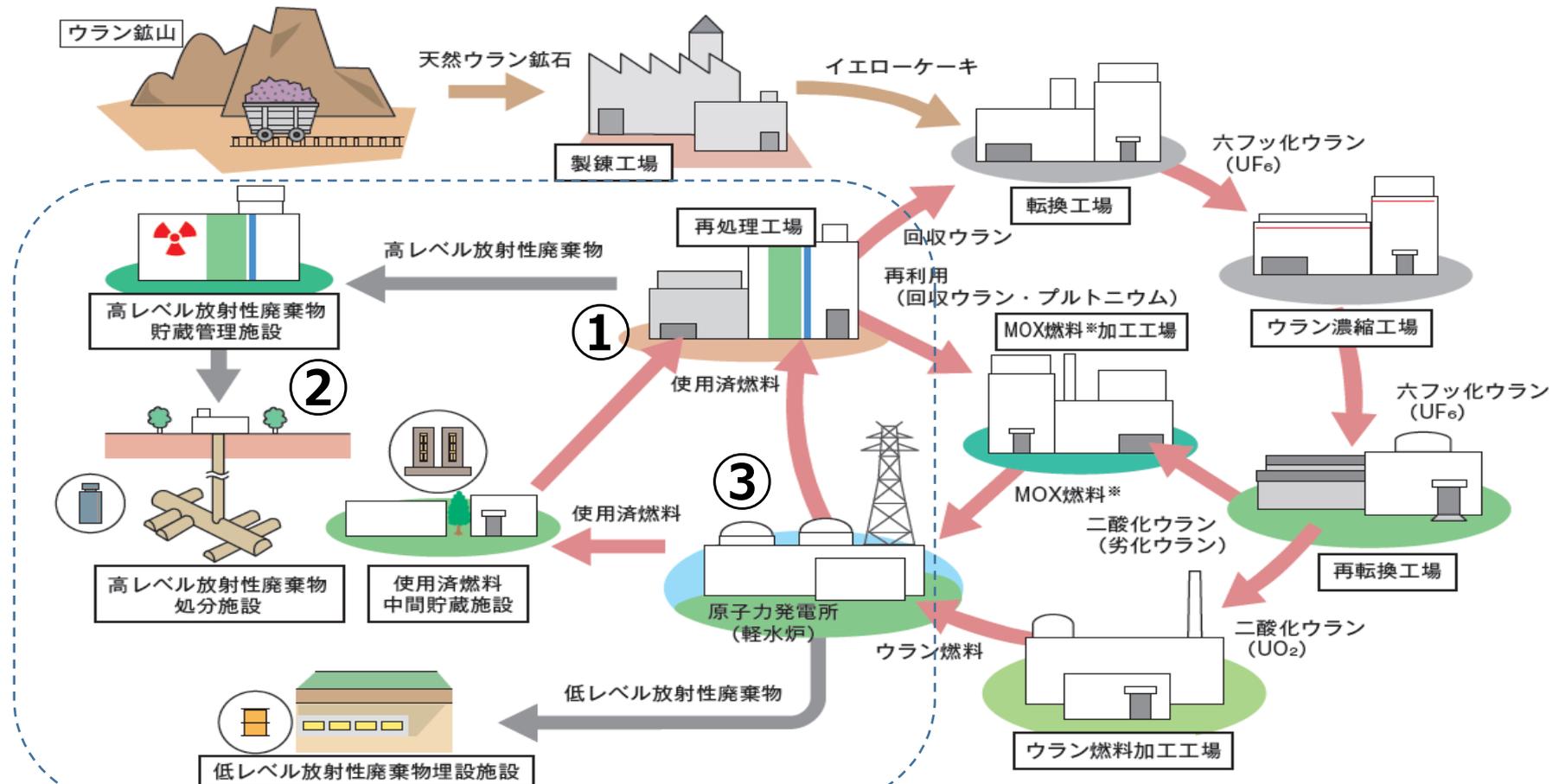
(億円)

	今回 A (3か年平均)	現行 B (2008原価)	差引 A-B	備 考
使用済燃料再処理等 拠 出 金 発 電 費	15	27※	▲12	法令：「原子力発電における使用済燃料の再処理等の実施に関する法律」 ・原子力発電電力量の減少による使用済燃料発生数量の減算 算定式：使用済燃料発生量×拠出金単価
特 定 放 射 性 廃 棄 物 処 分 費	-	6	▲6	法令：「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」 ・今回原価算定期間においては、2023年1月～2025年12月の運転に伴って生じた使用済燃料が対象となるため、費用計上なし (当社の原子力再稼働織込みが2026年1月以降のため)
原子力発電施設解体費	43	14	29	省令：「原子力発電施設解体引当金に関する省令」 ・解体見積総額の増（現行1,027億円 → 今回1,318億円） ・省令改正に伴う引当額算定方法の変更による増
合 計	57	46	11	

※改正前の「原子力発電における使用済燃料の再処理等のための積立金の積立て及び管理に関する法律」に基づく、使用済燃料再処理等発電費を記載。

【参考】原子力バックエンド費用の概要

- ① 使用済燃料再処理等拠出金発電費 ……使用済燃料の再処理に係る費用
- ② 特定放射性廃棄物処分費 ……高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る費用
- ③ 原子力発電施設解体費 ……運転終了後の原子力発電所の解体に係る費用



※MOX (Mixed Oxide) 燃料：プルトニウムとウランの混合燃料

(出典)日本原子力文化財団HP

【参考】原子力発電施設解体費の概要

- 2025年度末時点での志賀1・2号機の原子力発電施設解体引当金の累積引当額は730億円となり、引当率は約55%となります。
- なお、今回の原子力発電施設解体費は、2013年10月以降の改正省令に基づき算定しております。
改正前：生産高比例法（運転期間40年、平均設備利用率76%を前提として想定総発電電力量を設定）で稼働実績に応じて引当
改正後：① 定額法へ変更（稼働状況に左右されない着実な引当、各期の引当額平準化）
② 発電開始から40年で引当（解体本格化までに引当）

＜原子力発電施設解体費の状況＞

(百万円)

		総見積額 A	既引当額 ※ B	原価算定期間					累積引当額 D=B+C	未引当額 A-D	引当率 D/A
				2023 年度	2024 年度	2025 年度	3か年平均	3か年合計 C			
志賀 原子力 発電所	1号	51,968	33,902	1,869	1,869	1,869	1,869	5,607	39,509	12,459	76.0%
	2号	79,788	26,291	2,404	2,404	2,404	2,404	7,213	33,504	46,284	42.0%
合計		131,756	60,193	4,273	4,273	4,273	4,273	12,820	73,013	58,743	55.4%

※2022年度末における累積引当額（推定実績）

（参考）志賀原子力発電所の発電・運転開始日

	発電開始日	運転開始日
1号	1992/12/26	1993/7/30
2号	2005/7/4	2006/3/15